

ガーナ共和国

首都……アクラ
面積……約23.9万km² (日本の約3分の2の広さ)
人口……約1,841万人 (2000年)
政体……共和制
宗教……キリスト教、イスラム教など
元首……ジョン・アジェクム・クフォー大統領



from the world
世界の国
から

ガーナ共和国

Republic of Ghana



ガーナの現状を知らせることが投資への第一歩

ガーナの正しい情報を 日本に

ガーナといえば、日本の皆さんがまず想像するのは「チョコレート」でしょう。しかし、その次のイメージが思いつかないのではないのでしょうか。日本では、ガーナに限らず、アフリカのイメージはどうしても「紛争」「飢餓」など否定的なものになりがちです。

しかし、本当のガーナは「西アフリカの優等生」といわれ、インフラも整い、政治的にも非常に安定しています。今回のデレゲートプログラムでは食料品の加工など16案件を用意しましたが、第一の目的は、案件のプロモーションもさることながら、決定的に不足しているガーナに対する正しい情報を日本に伝えるための基礎をつくる、ということでした。

滞在中 (10月5日～11月17日)、私

の所属するGIPC (ガーナ投資促進センター) と日本の企業を結びつける意味も含め、できるだけ幅広く多くの企業や関係機関の方々と会うよう努めました。そのため、東京はもちろん、大阪、平塚、浜松、群馬などに出かけ、工場などを訪問しました。

各地で歓迎を受けましたが、訪問先でいわれたのはやはり「情報があまりにも少ない」ということでした。

距離を克服する ユニークな案件が不可欠

ガーナへの投資を考えると、一番のネックは日本との距離の遠さです。日本とガーナの間には、東南アジアをはじめ多くの国があり、特に日本の隣には中国という強力なライバルがいます。そうした中で、日本からの投資を得るには月並みな案件では相手にしてもらえません。

ですから、距離の克服にはガーナならではのユニークで、しかも市場原理で利益の確保ができる案件の構築が不可欠だと考えています。

また、投資というと、日本では総合商社が非常に大きな役割を果たしています。現在、ガーナには日本の4つの総合商社が進出しており、今後はGIPCとこれらの商社との連携を深め、



世界遺産に登録されているエルミナ城塞。かつては奴隷貿易の拠点とされた。

常に新しい情報を提供できる体制づくりに取り組むつもりです。

今後は観光産業の促進も

豊富な天然資源、世界遺産、フレンドリーなガーナ人など、ガーナはいろんな魅力にあふれています。ガーナの最優先産業には観光業の促進があり、そうした魅力を伝える日本語版のパンフレットや大使館のホームページを早急に作成し、日本からの観光客をプロモートしたいと考えています。

今回の来日は3回目ですが、前の2回 (1996、2000年) はグループ研修だったため、単独でしかもプロフェッショナルな仕事であった今回とはまったく意味合いが違いました。また、日本では「時間を守る=信頼の証」であるということも学びました。帰国後は、滞在中に学んださまざまな経験を生かして、日本からの投資促進を図るつもりです。

エドワード・アション-ラーティ

ガーナ投資促進センター
投資促進専門官

Mr. Edward B. Ashong-Lartey
Executive Assistant to the Chief Executive
Ghana Investment Promotion Centre (GIPC)



多くの人々が集まる市場と街並み